

防災講座「避難生活を学ぶ」2回目

平成27年5月16日
菅山公民館 19時～
若杉正則

前回4月18日(土)の1回目の講座では、「牧之原市の被害状況」「牧之原市の避難所施設」「牧之原市の災害対策」そして地震津波だけではない「自然災害」を学習しました。
今回の講座では被害状況を把握した上で「我が家の災害リスクを知ろう」をテーマとして開催しました。次第は次の通りです。

本日のテーマ「我が家の災害リスクを知ろう」 「平常時の対策」は？

- 1、 オリエンテーション
- 2、 アイスブレイク
今日の進行係 時計係
- 3、 自己紹介と家族紹介
名札カードに自分の愛称をつける。
家族紹介欄には架空の家族を付け加えてもよい。
(災害弱者が家族にいた場合の対策を検討する意味で)
- 4、 町内会名を決めよう
グループのテーブルには〇〇丁目とあるので素敵な町内会名をつけて下さい。
- 5、 我が家の災害リスクを知ろう
- 6、 我が家の災害リスク12項目のチェック
- 7、 次回資料の配布 非常持ち出し品と備蓄品
- 8、 閉会

オリエンテーションで本日の次第と進行状況を説明した後、アイスブレイクを行い本日の進行係と時計係を決めていただきました。

ワークショップを行うに当たっての注意事項として

「気楽に、楽しく、中身濃く 遊び心で楽しく」

「それは無理、出来っこない」は禁句 何とか解決方法を

「自分ばかり話しません、1分以内で分かりやすく、他人の意見を否定しません、他人の意見を尊重します、他人が話しているときさえぎることをしません」

「自己紹介と家族紹介」の所では進行係の人を口切りに、時計係1分間の合図の中自分の愛称と実際にはいない家族を含めて紹介をしました。1分間という時間の制限の中、和気あいあいとした雰囲気自己紹介をしました。

「町内会名を決めよう」の所も、1分間という時間の中で個人の思いついた町内会名を書き出しグループ内で共有し、共感した町内会名を各グループごとに発表し全員の投票で素敵な町内会名が決まりました。

1丁目は「太陽の丘」(他にいなか村、ほほえみ、菅山緑茶会、茶園町、太陽の丘)

2丁目は「年金町」(他に油田町内会、茶つき茶つき、光ヶ丘、茶処、年金町)

4丁目は「やぶきた油田の里」(他に油田の丘、あぶらかたぶら、油田の丘、夢ヶ丘、やらまいか

里山町内会、やぶきた)

3つの候補が上がりました。菅山と言えはやはり「お茶と油田」になるのかと思います。

各自2ポイントをもち、1ポイントは自分の候補名で良いが、もう1ポイントは共感した他の候補名に投票していただきました。その結果「太陽の丘」14票、「年金町」8票、「やぶきた油田の里」10票で「太陽の丘」が決まり、今後は「**太陽の丘町内会**」として活動してゆきます。

本日のテーマ「我が家の災害リスクを知ろう」では「静岡県危機管理部」発行の「家庭内対策（自助）チェックリスト」を使い我が家の防災対策についてチェックしていただきました。

このチェックを受けた上で次の12項目に絞り込み「我が家の災害リスク」をさらにチェックしていただきました。

- * **津波浸水区域か？**（菅山の場合菅山入口の交差点以東、萩間川の間は海拔10m以下で有り、473号BP間は15m以下で有る。大きな地震発生時には速やかに避難の必要がある。）
 - * **土砂災害危険区域か？**（近くにあるか）（菅山の場合土砂災害危険区域が20数か所あり普段の生活には支障がないが、大きな地震や、台風などの大雨の時には土砂災害を引き起こす。）
（牧之原市ハザードマップ参照 昨年全世帯に配布済み）
 - * **川のそばか、過去に冠水したか？**（台風などの大雨の時、川があふれ洪水被害をもたらす。過去に冠水した地域は特に注意する必要がある、避難勧告等が発表された時には速やかに避難行動をとる必要がある。）
 - * **上流に農業用ため池はないか？**（耐震性のないため池は大きな地震により決壊する恐れがある。下流部では土石流の発生が予想されるので、地震発生時にはいち早く高台に避難する必要がある。津波は来ないからと安心してしていると足元をすくわれることになる。）
 - * **自宅建物の耐震性は確保されているか？**（昭和56年以降の建物か）（震度6弱～6強での耐震性がないと逃げ出す時間も確保されなくなる。災害リスクの最も重要なチェック項目と言える。）
 - * **家具は固定しているか？**（固定していない家具は大地震の時、大きく移動して生命を奪う危険があり、逃げ場を失うこととなる。災害リスクを軽減する意味で必ず家具の固定を。）
 - * **窓ガラス等の飛散防止をしているか？**（窓ガラスや食器戸棚のガラスは飛散防止のフィルムを張って置く必要がある。ガラス等で怪我をすると避難すらできなくなる。）
 - * **震度7で家が倒壊するかもしれない？**（南海トラフの巨大地震では80%の建物が全壊もしくは半壊するといわれています。上記すべてのリスクが解消されたとしてもこのリスクだけは負う事となります。避難生活は避けることが出来ません。）
- 災害リスクとは言えないが、常に備えているか？
- * **就寝時枕元に貴重品、懐中電灯、履物、雨具を用意してあるか？**（懐中電灯—暗闇では人は行動できない。履物—素足では外を歩けない。雨具—雨が降っているときは体が濡れてしまう、濡れると低体温症になり死に至る。防寒着としても役立つ。）懐中電灯、履物、雨具を大規模災害時の3種の神器という。助かるために、最低これだけは用意を
 - * **家族が集まる場所を決めているか？**（災害が起きるとき、家族全員がそろっているとは限らない。）
 - * **非常持ち出し品を用意しているか？**（大規模災害時屋外で避難生活を強いられる。少なくとも2～3日生活できる非常食を含めた非常持ち出し品 次回の講座でこの件に付き学んで行きま
 - * **携帯トイレを用意しているか？**（とかく軽視されがちですがもっとも重要な品です。食べることは我慢できても、排せつは我慢できません。）

結果発表は各々が自覚すればよいことですのでここでは発表しません。

避難生活計画表の作成

大規模災害の発生により避難生活は必然的に発生することになります。そこで発災日を境として平常時の対策と発災後の避難生活を考慮した計画表を作成する必要があると思います。

避難生活計画表（東海地震等、を想定した場合）

平常時の対策	発災後想定される避難生活					
	発災	3日後	7日後	30日後	60日後	
住宅の耐震 家具の固定・ガラスの 飛散防止 非常食の用意（3日分） 非常持ち出し品の用意 （携帯トイレ） 備蓄食の用意（7日以上） 備蓄品の用意（簡易トイレ） 防災知識の習得 家族間の連絡体制 （遠くの親戚）	避難地生活	避難所生活	仮設住宅	仮設住宅	仮設住宅	
		在宅避難	住宅内の片づけ	住宅の補修	住宅の再建	広域避難
	ライフライン		7日後	電気・電話の復旧		
				10日後	道路の復旧	流通の回復 一部商店の営業再開
				30日後	上水道の復旧	
	外部支援		7日後	外部からの支援（緊急支援物資）		
				10日後	災害ボランティアが 被災地に入る 復旧に向けて加速	
	被災者自身の生活回復		7日後	水・食料の調達	生活用水の確保 日用品の確保 トイレ問題・計画 洗濯・風呂の問題・計画	
	等々					

家庭環境の違いにより平常時の対策も異なり、災害弱者・要援護者を抱える家族はさらに密なる対策が必要となる。

次回の講座は3回目として6月20日（土）19時～ 菅山公民館

次回のテーマは「避難する」

- * 避難地と避難所 救護所
- * 地震津波による避難
- * 風水害・土砂災害による避難（避難勧告・避難指示の発表を受けて）
- * 何を用意すればよい 非常持ち出し品・備蓄品 非常食と備蓄食

次回講座の資料配布——「防災・避難用品」の冊子